日揮グループ AI 基本方針

前文

日揮グループは、パーパス「Enhancing planetary health」のもと、社会インフラの高度化、エネルギートランジションの推進、機能材製造事業および新たなソリューションビジネスを含む事業の成長を通じて、持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指す。

その実現には、現場知、技術知、プロジェクト遂行力に加え、製造、研究開発および事業運営に関する多様な知見を結びつけ、知とノウハウの蓄積・循環を加速し、新たな価値へと転換していくことが不可欠である。AI は、そのための重要な技術基盤であり、業務の高度化、知識の活用と伝承、意思決定の迅速化を支えるとともに、これまでにない発想と価値創出の可能性を切り拓くものである。

日揮グループは、BSP2030 が掲げる「技術をつなぎ、一歩先のソリューションで課題に挑む協働者」の実現に向けて、AI を企業活動における重要技術として位置づけ、これを積極的に活用し、事業の変革、競争力の強化および社会への新たな価値提供につなげていく。

同時に、AI の活用には、情報漏えい、誤情報の生成・拡散、法令・契約違反、知的財産権侵害、偏見・差別の助長、サイバー攻撃への悪用その他のリスクが伴う。日揮グループは、情報セキュリティ、法令・契約・社内規程の遵守、品質確保および倫理的配慮を前提として、適切な統制のもとで責任ある AI 活用を推進する。

日揮グループは、AI を単なる効率化の手段としてではなく、事業価値を高め、社会に新たな価値を提供するための力として捉える。人間中心の考え方のもと、価値創出と積極的活用、人間による最終責任、法令・契約・社内規程の遵守、適切な情報管理、透明性・説明可能性、品質確保と検証可能性、公平性・倫理的配慮、知的財産の尊重、ならびにガバナンスと継続的改善を基本原則とし、AI を適切に統制しながら積極的に活用していく。

第1条　価値創出と積極的活用

日揮グループは、AI を事業の発展を支える重要な技術として位置づけ、業務の高度化、知識の活用、意思決定の迅速化および新たな価値創出に積極的に活用する。AI の活用にあたっては、効率化にとどまらず、安全・品質・技術力の向上に資する利用を推進するとともに、暗黙知の形式知化を通じた技術の伝承と組織知の蓄積・循環に活用する。

第2条　人間による最終責任

AI の出力は補助的手段とし、業務上の判断、意思決定および成果物の最終責任は人間が負う。重要な意思決定、対外的な説明、契約、安全、品質その他事業に重大な影響を及ぼす事項については、AI の出力のみに依拠しない。

第3条　法令・契約・社内規程の遵守

AI の利用、開発または提供にあたっては、適用される法令、規制、契約上の義務、顧客要件および社内規程を遵守する。第三者から受領した情報は、その利用条件に反して取り扱わない。

第4条　適切な情報管理と情報セキュリティの確保

AI への入力は業務目的の達成に必要な範囲に限定し、保護対象情報については適切な保護措置を講じる。AI サービスは日揮ホールディングス株式会社が認めた条件のもとで利用し、情報の漏えい、不正利用および不適切な第三者提供を防止する。

第5条　透明性・説明可能性の確保

AI が関与した重要な判断または成果物については、その利用事実、目的、範囲および限界を、必要に応じて説明できる状態を確保する。AI の利用により、責任所在の不明確化または不適切なブラックボックス化を生じさせない。

第6条　品質確保と検証可能性

AI の出力には誤情報、偏り、誤解釈その他のリスクが内在することを前提とし、業務に利用する場合は、その正確性、妥当性および適切性を検証する。特に重要な用途については、慎重な確認を行う。

第7条　公平性・倫理的配慮

AI の活用にあたっては、人権および人間の尊厳を尊重し、差別、偏見、不当な取扱いその他の倫理上の問題を生じさせない。AI の利用により、特定の個人または集団に対して不当な不利益を生じさせ、またはそのおそれを高めない。

第8条　知的財産権の保護

第三者の著作権、特許権、商標権、営業秘密、肖像権、プライバシーその他の権利または利益を侵害しない。日揮グループが保有する技術、ノウハウ、データ、成果物その他の知的資産についても、その価値および秘密性を損なうことのないよう適切に保護する。

第9条　ガバナンスと継続的改善

日揮グループは、AI 利用に関する方針、規程、責任体制、教育、モニタリングおよび運用を継続的に見直し、改善する。AI の利用状況およびリスクを把握し、必要に応じて是正、再発防止およびインシデント対応を行うとともに、AI リテラシーの向上に努める。

以上